

院内の清潔ケアにおける固形石鹸の共用の現状と 看護師の意識 より清潔に使用するために

東邦大学医学部付属大森病院 1号館3階病棟

戸 美也子／高畑 千春／池田 紗知／竹内 麻希子
齋藤 綾子／関川 真由美／中澤 恵子

はじめに

院内感染防止のために医療従事者の手洗いは最も重要な行為であることから、有効な手洗い方法については多くの研究がなされている。手洗いにおける固形石鹸の問題は付着している菌による交差感染の危険性であり、院内でも固形石鹸から液体石鹸へと移行してきている。しかし、清潔ケアにおける固形石鹸の使用・保管方法に関してはほとんど報告がない。当病棟においても日々の患者への清潔ケアを行う際には、固形石鹸を使用している。その場合、基本的には個人用の固形石鹸を使用するが、やむを得ない場合には病棟用の固形石鹸を共用している現状がある。病棟で共用している固形石鹸は、水に濡れた状態で置かれていたり、使用前後に流水洗いをしていない人がいたり、清潔とはいえない使用・保管方法である。

当病棟では化学療法による易感染状態の患者が半数以上を占めている。易感染者は二次的な感染に陥りやすいが、そのような患者の清潔ケアにも固形石鹸を共用している。このことから、固形石鹸が感染の媒体となり、院内感染の原因の1つになるのではないかと疑問を持った。そこで前調査として院内すべての病棟を対象とし、固形石鹸の共用の有無とその使用・保管状況を調査したところ、全病棟で共用していることがわかった。

以上のことから患者の身体への清潔ケアがより安全に、気持ちよく行われるために、固形石鹸の共用の是非について検討していく必要があるのではないかと考え、固形石鹸の共用の現状と看護師の意識について調査を行った。

目的

- 院内における固形石鹸の使用・保管状況の実態を明らかにする。
- 固形石鹸を共用することに対する看護師の意識を明らかにする。
- 固形石鹸を共用することが院内感染の原因となる可能性の有無の検討を行う。

研究方法

1 アンケート調査

研究対象: 当院において、前調査の結果、共用している固形石鹸の保管方法の異なる病棟(内科、外科、小児を含む)の代表計6病棟の師長を除く看護師192名とした。

方法: 固形石鹸の使用・保管方法及び固形石鹸を共用することに対する意識についてのアンケート調査を実施した。

期間: 平成15年11月17日～平成15年12月1日

2 細菌培養検査

実験方法:

- ① 6病棟で各々現在使用されている固形石鹸2～3個の表面を滅菌綿棒で拭き取り、培養し菌の同定を行う。
- ② 当病棟で使用しているソープディッシュ3個の内側を①と同様に培養し菌の同定を行う。
- ③ 当病棟で新しい固形石鹸を3個設置し、ソープディッシュに入れて患者の清潔ケアに使用してもらい、平成15年12月11日～平成16年1月8日までの期間に定期的(1週目、2週目、4週目)に①と同様に培養し菌の同定を行う。

アンケート結果

1 病棟用の固形石鹸の共用の有無

- 病棟用の固形石鹸のみ使用する病棟: 1
- 基本的には患者持ちの石鹸を使用し、無い時のみ病棟用の石鹸を使用する病棟: 5

2 病棟用の固形石鹸の保管場所・保管方法

<保管場所>

- 汚物室の流し台の上の棚
- 汚物室の棚
- 床頭台の中
- 処置室の流し台の石鹸置き
- 沐浴槽のへりの石鹸置き
- 処置室の流し台の上の棚

<保管方法>

- ふたの無いソープディッシュに入れる
- ふたのある容器に入れる
- ガーゼに包んでビニール袋に入れる
- 紙コップに入れる
- 沐浴槽のへりに置く

3 病棟用の固形石鹸の使用頻度(アンケート回答前1週間の間)

対象の55%(103名)が毎日固形石鹸を共用していると答えた。

4 病棟用の固形石鹸の使用前後の流水洗いの有無

- 使用前のみ洗い流す: 17%(29名)
- 使用後のみ洗い流す: 14%(24名)
- 使用前後に洗い流す: 42%(73名)
- 使用前後ともに洗い流さない: 25%(44名)

5 共用している固形石鹸は清潔・不潔のどちらだと 思うか? (図1)

- 清潔: 3%(6名)
- 不潔: 67%(127名)
- 考えたことがない: 30%(56名)

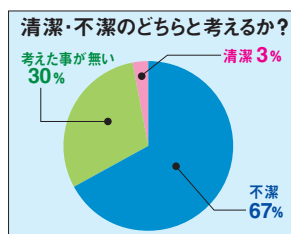


図1

6 清潔・不潔と考える理由 (自由回答)

<清潔>

- 毎回洗い流しているため
- 石鹸が直接身体に触れることはないため
- 体表面に使用する為肉眼的な汚れがとれていれば問題はない
- 石鹸なのである程度きれいなのかもしれない

<不潔>

- 保管状況が不潔
- 身体のどこに使用したか分からない状況で共用しているため
- 感染の可能性がある
- 使用前後に洗い流しているか不明
- 細菌が繁殖していそうである

7 共用した固形石鹸を自分に使われるとしたらどのように感じるか (自由回答) (図2)

- 嫌だ・不快：84% (132名)
- 何も感じない・石鹸だから不潔ではない：16% (25名)

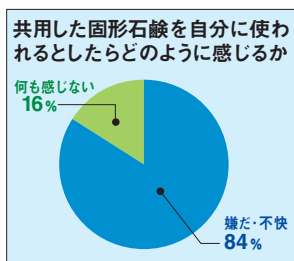


図2

実験結果

- ① 各病棟で使用していた固形石鹸の表面からは、コアグラゼ陰性ブドウ球菌(CNS)やバシルス属などの皮膚の常在菌のみが検出された(表1)。

表1 6病棟で使用していた固形石鹸の培養結果

採取病棟・検体	分離菌名	分離菌数(CFU/ml)
A ①	(-)	
A ②	(-)	
B ①	(-)	
B ②	CNS*	100>
C ①	Bacillus spp.**	100>
C ②	Bacillus spp.	100>
C ③	Bacillus spp.	100>
C ④	(-)	
D ①	CNS, Bacillus spp.	100>
D ②	Bacillus spp.	1000
D ③	Bacillus spp.	1000
E ①	Bacillus spp.	100>
F ①	Candida spp.	100>
F ②	(-)	

*CNS:コアグラゼ陰性ブドウ球菌
**Bacillus spp.:バシルス属

- ② 経時的に見ていた石鹸のうち1個から、1週目にMRSAが検出された(10²>/ml)。2週目、4週目には検出されなかった(表2)。

表2 新しい固形石鹸の経時的な培養結果

	石鹸1	石鹸2	石鹸3
使用前	(-)	(-)	(-)
1週目 分離菌数(CFU/ml)	CNS* 100>	CNS 1000	CNS, MRSA 100>
2週目	(-)	(-)	(-)
4週目	(-)	(-)	(-)

*CNS:コアグラゼ陰性ブドウ球菌

考察

アンケート調査では、共用している固形石鹸をふたのある容器に保管したり、42%(73名)は使用前後に流水洗いをしており、個人レベルでは清潔にしようとする姿勢は見られている。一方で、67%の人が固形石鹸を不潔と思いながらも

共用し、さらに自分には使われるのは嫌だと思いながらも患者へ使用している。私たちは患者の身体を清潔にし、爽快感を与えるための重要な行為として日々の清潔ケアを行っているが、業務をこなすことが優先されがちであり、固形石鹸を不潔ではないかと思っけていても、共用することに対しては特に問題意識を持つことなく漫然と使用していたことがうかがえる。

細菌培養検査では、当病棟及び他病棟で現在使用されている固形石鹸からは、特に感染に重要と思われる細菌は検出されなかった。このことから、調査した固形石鹸による感染の可能性は低いと考えられた。また、新しい固形石鹸における経時的な細菌の培養結果では、使用1週目においてCNSやバシルス属などの皮膚常在菌が分離されたが、菌数は少なかった(10²>~10³/ml)。使用2週目、4週目ではともに細菌は分離されなかった。このことから、固形石鹸表面上における細菌の感染性の程度は低いと考えられた。しかし、MRSAが分離されたこともあり、固形石鹸の共用による交差感染の可能性は否定できない。

従って、固形石鹸を共用することが交差感染の可能性があるということを認識し、今後は、①固形石鹸は患者個人持ちとし共用はしない、②共用するのであれば液体石鹸を使用することが望ましい、と考える。

私たちは患者中心の看護を目指しているが、固形石鹸を不潔と思いながらも共用し続け、しかも私たちが嫌だ・不快と思う行為を患者に行うことは看護師本位のケアにすぎない。固形石鹸の共用に限らず、日々の業務の中で疑問を持つ事は多いが、それを問題として捉えることが出来れば、看護師は患者の安全・安寧を守るという責務を果たすための意識と行動の変容ができると思う。そして、問題意識を持つためには常に自分の行動を振り返り、疑問をそのままにせず、科学的根拠に基づいた行動につなげていくことが大切である。

結語

- 固形石鹸の保管方法の違いが検出される細菌に関連性はなかった。
- アンケート結果から、看護師は共用の固形石鹸を個人レベルでは清潔にしようとする姿勢が見られた。しかし、固形石鹸の共用を不潔と思いながらも使用していた。
- 共用した固形石鹸からMRSAが検出され、免疫機能が低下している患者に使用する場合、交差感染の原因となりうる可能性があること示唆された。
- 今後は固形石鹸は患者個人持ちとし、共用はしない。共用するのであれば液体石鹸の使用を提案していきたい。
- 私たちは日々の看護ケアが院内感染の原因となり得ることを常に意識し、危機感を持っていきたい。

参考文献

- 1) 椎葉典子:手洗いの環境的側面への取り組み、INFECTION CONTROL 2002, vol. 11, no.8
- 2) 白石正、仲川義人:抗菌剤配合液体石けんの除菌効果、INFECTION CONTROL 2002, vol. 11, no.4
- 3) 白石正:手指消毒薬と石けん成分の特徴、INFECTION CONTROL 2002, vol. 11, no.8
- 4) CDCガイドライン(Garner JS, Favero MS. CDC guideline for handwashing and hospital environmental control, 1985. Infect Control 1986;7:231-43)